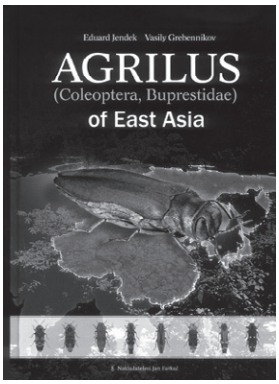
書評

***Agrilus* (Coleoptera, Buprestidae) of East Asia**

Eduard Jendek and Vasily Grebennikov
Jan Farkač, Prague
September 30, 2011, 362 pages.

甲虫はもとより動物でも最も大きな属として知られているナガタマムシ属 *Agrilus* の東アジアにおける包括的な分類学的再検討が，カナダ食品検査庁の Jendek, E. と Grebennikov, V. によってなされ，このたび一冊の本として上梓された．中国本土，朝鮮半島，モンゴル，ロシア極東，日本本土（琉球列島・小笠原諸島を除く）の 278 タクサが扱われており，そのうち 74 は新たに記載されるタクサである．本研究は，東アジア原産のアオナガタマムシ *A. planipennis* が北アメリカに侵入し，近年トネリコ類を枯死させる害虫として問題となっていることが発端になっている．本種を *A. planipennis* と最初に同定したのは，第一著者の Jendek であり，その過程において，東アジア産の本属の基礎的な分類学的情報の欠如，亜属分類の混乱，タクサの批判的な再検討の欠落，未処理の多くの同物異名や模式標本の問題を認識し，これら多くの問題が研究の発展を妨げていることに気付いた．そのため，本属の種が植物資源に対する潜在的な脅威になっていること，および東アジア産の本属の分類学的研究が不十分であるという意識のもと，東アジア産の本属の利用可能なすべての情報を一冊の本としてまとめるという目的のため，包括的な研究となっている．

本書は主に，形態学および分類学，そして解析の三つの章から構成されている．形態学の章では，173 の図を用いて形質状態を詳細に概観している．分類学の章は本書の最も多くを占める部分で各亜属と種群，種の解説がなされている．各種の解説では，詳細なシノニミックリスト，（再）記載，識別表徴，模式産地，模式標本の情報，成虫出現期，標高，寄主植物，学名の由来が記載されており，さらに図版として背面図および雄交尾器，模式標本の鮮明なカラー写真が備えられている．成虫出現期や標高のデータはラベルから得たデータをその標本数とともに記述してあり，寄主植物は個々に引用文献が示してある．また，68 ページにわたるカラー図版は圧巻で，雄交尾器や模式標本の写真を可能なかぎり掲載していることから今後の研究や同定にも有用である．最後の解析の章では，29 の地図と共に様々な観点から統計的あるいは生物地理学的な解析を行った結果を示している．この他に付表として，本書で行われた新たな分類学的変更や東アジア産 *Agrilus* のカタログ，分布表などがあり便利である．同時に日本産 *Agrilus* について，いくつかの検討課題もあり，今後の研究が望まれる．



さて，大変な力作である本書だが，あえて難点を指摘するならば，筆者らが摘要で述べているように本書には検索表がない点である．読者には全形図，種群および各種の識別表徴，雄交尾器の図を用いて同定するように薦めているが，種はともかく種群の検索表が備えられていればさらに利用しやすかったと思われる．また，惜しむらくは本書には索引がなく不便な点である．

最後に，これだけのものを著すためには多大な労力と情熱が注がれたのは想像にかたくない．筆者らは *Agrilus* を“審美的な美しさがあり，かつ魅惑的な生物学的現象（esthetically beautiful and fascinating biological phenomenon）”と形容しており，ここに筆者らがこれだけの大著を著した原動力をかいま見た気がした．本書は東アジア産の本属の研究を進めていくうえで重要な叩き台となるであろう．この群の研究者にとって必携なことはもちろんだが，そうでなくても，美麗なカラー図版を眺めながらなぜこれほど多様なのだろうかと思索にふけるだけでも楽しい．ぜひ手に取ってご覧になることをお薦めする．

（九州大学生物資源環境科学府昆虫学教室
瀬島翔馬
・石川県ふれあい昆虫館　福富宏和）